

中に歸せり。是に於て同市は回々教の中心靈場と爲り一切巡拜者の模範的祭式典を制定したり。

以上述べし如く、マホメツトは、二十餘年間、殺人劍と哥蘭經とを以て、回々教の爲めに異教徒と奮闘勇戦し、遂に全人民を説服統一して、法王兼國王と爲り、六十三歳を以て圓寂しぬ(時に紀元六百三十二年六月八日)

マホメツトは早く既に回々教を世界的宗教たらしめんことを期し、劍と火とを以て、他の國民に傳道すべく、後事を弟子に命じたり。又生前使を羅馬東帝及波斯王、埃及王に遣はし、回々教に歸依すべく勸告せしも、効を奏せざりしが故に兵力に依り其の目的を貫徹すべく遺命したり。是に於てマホメツトの死と共に、弟子能く其の遺旨を遵奉し、熱血を注いで哥蘭經を染めつゝ、附近の王國を始め、歐亞各國に遠征し、遂に一億七千餘萬の信徒を作るに至りたり。

回々教の支那に進入せしは、七世紀(唐代)の初めにして、當時回教民は、毎年一回通商を以て、廣東、寧波、福州等に來り、風に乗じて大洋に出で還るを常とし、支那人は之を以て、テンフアン天方國人と稱し居りしが、後遂に亞刺比亞人たるを知り、以來交誼甚だ厚く、

マホメツトの圓寂

回教軍の遠征

支那へ布教